努力と勇気でチャンスをつかむ

競争を生き抜く代理店

㈱日本シンクタンク　代表取締役　那須顯一

◀ 52 ▶

TEL06-6282-6488(代)
http://www.j-thinktank.com/

今年は「水」「難」の1年

金融システム崩壊の恐れも

今月私の地元大阪では、大阪府知事選挙・大阪市長選挙の同日W選挙が連日報道され、その話題で持ち切りでした（結果的には大阪維新の会が圧勝）。特に大阪市長選挙は、橋下さんが多いに取り上げられておりました。

その中で結果的に落選された平松さんの発言で『赤字財政が続く自治体ではダメだと思うが、企業でない自治体が、なぜ黒字で利益を出し続ける必要があるのか？　利益追求体質と住民サービスの充実は相反する場合も出て来る』と言う趣旨の発言をされていました。

それまでなぜか、改革出来ない物は悪！　と言わんばかり、平松さんが、既得権の抵抗勢力に見えていましたが、その至極まともな発言をされ、本当の自治体の役割を認識している姿に、

『平松さんが負けるのももったいない。どっちが勝ってもお互いタッグを組めばいいのに！』

と感じさせられました。

当然選挙とは、民意で勝ち負けがはっきりするものですが、お互い智恵のあるお二人ですから、いつか大阪のために！　智恵を出し合う日が来てほしいものです。

そんな熱い戦いが終わると、あっと言う間に師走。年輪を重ねるごとに、1年が早く過ぎて行く気になるのは私だけでしょうか？？

今年を振り返ると、まさに【水】【難】の1年で、日本では3月11日の、東日本大震災＋巨大な津波で多大な被害を被り、さらに台風の被害も甚大…海外でも巨大地震が多数発生し、タイの大規模洪水では、現地の方はもちろんのこと、日本企業も多大な損害を受け、沿岸部、山間部、はたまた平地にいても安心出来ない状況で、私自身、関東方面に出張すると度々地震に見舞われました。

そしてわが国においては収束しきれていない福島第一原発の放射能漏れ、広範囲に渡る土壌汚染の上に、様々な食品が放射性物質に汚染されている現状。

また、民主化運動のドミノ現象や、「オキュパイ・ウォールストリート（OWS＝ウォールストリートを占拠せよ）」に端を発した、格差是正を求め、現在の金融システムに反対するデモ運動等もあり、現在の様々なシステムが崩壊しそうな勢いに、やはり2012年には何か大きな変革が起こるのか？　と感じると同時に、何だか地球が壊れてしまうのではないか？　と思わされる1年でした。

福島第一原発を更新せず

日本原子力保険プールが判断

京電力福島第一原発の保険契約を更新しない方針を固めたとの報道がありました。

日本原子力保険プールでは、同原発の事故は収束に向かっているとしながらも、7月に海外の再保険会社から「引き受けは難しい」との連絡があった事、依然としてリスクが高いと判断した事から、原発の賠償を担当する文部科学省に事情を説明し、8月に東電に契約を更新しない方針を通知したと説明しています。

しかし困った事に、原子力損害賠償法では、電力会社など原子力事業者に「保険」に加入するよう義務づけられ、さらに先月下旬、3月の原発事故を受け、原子力損害賠償法の損害賠償保険の引き受けのために損害保険23社でつくる「日本原子力保険プール」が、来年1月に期限を迎える東京電力福島第一原発の保険契約を更新しない方針を固めたとの報道がありました。

日本原子力保険プールでは、同原発の事故は収束に向かっているとしながらも、7月に海外の再保険会社から「引き受けは難しい」との連絡があった事、依然としてリスクが高いと判断した事から、原発の賠償を担当する文部科学省に事情を説明し、8月に東電に契約を更新しない方針を通知したと説明しています。

しかし困った事に、原子力損害賠償法では、電力会社など原子力事業者に「保険」に加入するよう義務づけられ、さらに無保険状態で「原子炉の運転等をしてはならない」との規定があり、すでに福島第一原発で通常運転には無理がありますが、燃料棒の取り出しなども運転にあたりますので、無保険のままでは来年事故処理ができなくなる可能性があり、事故収束や廃炉に向けた作業に大きな影響を与える事は必至なため、東電と文部科学省は保険と同額を供託するなど代替の対応策の検討を始めたとの事ですが、賠償や火力発電所の燃料費増で資金繰りに苦しむと言われる東電。

現行契約の切れる来年1月15日までに法改正、もしくは超法規的処置をとれない場合、福島第一原発の未だ続く放射能と汚染水の漏出は、どうなってしまうのでしょうか？　何れにせよ、事態の早期の収束を切望致しております。

また、この日本原子力保険プールと言うのは、損保23社で結成し保険を引き受け、原発を保有する各国の保険プール間で再保険契約を結び、リスクを分散している社会的責任がある立場ですが、そこはやはり民間会社。リスクの多い事からはすぐに手を引きます。

今回の原子力保険プールの件は、TPPや、何でも民間委託する考え方を、再考する機運になるのかもしれません。

今年の巨額な保険金支払は、今後の保険会社の経営方針の転換、保険料率のアップを余儀なくされると考えられ、来年以降、ますます保険会社はいろいろな意味での「リストラ」が必要になるでしょう。

もちろんその中には「代理店手数料」も含まれますし、同時に保険料のアップがありますから、顧客離れと手数料のWパンチを食らい、下手をすれば千上がる同業者の方も出て来ます。

その上、「保険料勝負」で安く叩かれるとなると、まさに「負のスパイラル」。多数がより安い物を求める世の中ですから、もちろん多数の収入も減少する事は間違いないなく、それに伴い物価も下がってくれれば良いのですが、先物市場がある限りそうとはなりません。

従って来年はこれまで以上に、取引保険会社、マーケット戦略、供給商品、従業員や家族に対して、様々な【備蓄】が必要となって来ます。

来年もますます備え、生き残れる代理店となれるようお互い精進しましょう。

皆様、良いお年をお迎え下さい。

来年業界はますます厳しくなる？

保険ショップの現場から…

面田 理恵 ―― 18

原発事故も影響か、高まる『がん保険』の関心

保障範囲やサポートサービスもしっかり説明

最近店頭にお越しになるお客様で、『がん保険』への関心が高まっているように感じました。

ニュースなどでも取り上げられているように、福島原発事故による、4年から5年後のがんの発症率が話題になっていることも関心の高さの一つの要因だと思います。

お店では、現在ご加入中の保険内容についてのお問い合わせ、ご相談が多いのですが、ご加入中の保険証券の中に『がん保険』も含まれているケースはたくさんあります。

それ以外に今から初めて保険に入ることを検討されているお客様のなかでも『がん保険』への関心、必要性について考える方が増えてきています。

現在ご加入中の方はがん保険の内容をちゃんと確認したいという思いがきっかけで、ご相談にこられます。

お店では、今ご加入中のお客様には保険証券の全体像からお話ししていき、がん保険も含め現在の保障内容について詳細にご説明し、まずご加入中の保険を知っていただくことから始めていきます。

また、初めて保険を検討されている方には何に対して不安か、をヒアリングしていきます。

病気やけがで入院したり、治療が始まったときに使える健康保険制度の高額療養費制度についてもお客様にわかりやすくご説明するように心がけています。

万一、がんにかかってしまうと想像以上にお金が必要になってきます。

精神的なダメージや、治療のために通院することで時間もとられてしまいます。

もしかしたら今就いている仕事を続けられないかもしれない、など後発的に発生するリスクについてデータを使ってご説明しています。

『がん保険』はお店で扱う保険会社13社でもそれぞれ発売されており、内容も保険料もさまざまです。

各々の商品の違いや、保障の範囲をよく把握し、お客様が混乱しないようにご説明するのを心がけています。

各社の特長をご説明の上で、お客様の不安をできるだけ払拭できるプランをご提案することに心血をそそいでいます。

それに付け加えて、最近保険会社でもさまざまなサポートサービスが付帯できるようになってきました。

たとえばがんに罹患したと判明したとき、今までならどこの病院に行ったらよいか？　どの治療方法があるのか？　など自分でインターネットで調べたり、周りの方に病院の評判をきいたり自助努力で探すしかなかったと思います。

現在のがんの治療について4つの格差があるといわれています。

地域格差、医療機関格差、医師格差、そして経済格差です。

特に医療機関の格差による治療実績等では、術後の五年生存率も大きく変わってきます。

また、がん専門医の在籍している人数が少ない病院では治療をうけるタイミングが遅くなったりすることもあります。

納得のいく治療をうけるために『病院と医師と治療法の選択』が必要になります。

こういった疑問、不安を解消すべく、電話や面談で医療相談がサポートサービスとして付帯されている保険商品もあります。

お客様が『がん保険』もふくめ保険を選択する上で、保障の範囲もふくめ、サポートサービスについての説明もし、よりよい安心を選んでいくのが私たちの使命だと日々真摯に取り組んでいます。

加入者には保障の全体を説明

不安払拭できるプラン提案